WEEKLY 一宮

題字　PG　安野譲次

The Rotary Club of Ichinomiya

●例会日　木曜日　●例会場　一宮商工会議所　●承認日　昭和24年12月31日

●事務局　一宮市栄4-2-1　一宮商工会議所内　電話〈0586〉24-1931　〒491-8686

Rotary

ロータリーに輝きを

URL:http://www5.ocn.ne.jp/~rc138/　E-Mail:rc138@lily.ocn.ne.jp

重文　「陵王」面　真清田神社蔵

会長	磯部　茂	幹事	則竹　伸也
会長エレクト	猪子　誠兒	副幹事	桑原　英寿
副会長	加藤　恭平	広報会報委員長	小島　幹人

2015年3月12日
第3193回例会

プログラム

卓話

梨田　昌孝氏

(NHKプロ野球解説者　日刊スポーツ野球評論家)

テーマ　「2015年シーズンを語る」

ロータリーソング　「我等の生業」

第3192回例会の記録
2015年3月5日(木)

会長挨拶　　磯部　茂

日中は穏やかにそよぐ風に春の訪れを感じることもできる季節となりました。とは言え花粉症の方にはこれから悩ましい季節の到来でもあり一長一短といったところでしょうか。

今日は弥生三月の第1例会です。

「弥生」は(いやおい)が変化したものとされ、「弥いや」はいよいよ、ますますの意であり、「生おい」は草木が芽吹くさまをいうとのことでまさに言いえて妙であります。

これから「卯月」、「皐月」、「水無月」と時は巡っていきますが、時々にこの陰暦の表す季節感が味わえたらいいなと思いつつ、早く「水無月」がくるのが待ち遠しい気持ちでもあります。

本日は米山奨学生、盧銀美さんの送別例会です。名古屋大学大学院の修士課程を見事終えられ、博士課程を目指されるとのこと一層のご健闘をお祈りいたします。米山学友会にも入会いただけるようであり、またお会いできる機会もあると思います。

結びにこの1年間カウンセラーとしてお世話頂きました関戸徹君、米山委員長の山田一仁君に心より感謝申し上げます。

次回の予定

クラブアッセンブリー

RYLAセミナーを目前にして

理事会報告　　幹事　　則竹伸也

＊ 報告事項 ＊

☆ 3月度のプログラムは週報掲載

☆ 2月度のニコボックスは 32,000 円

☆ 2月度のドリンクニコボックスは 5,700 円

＊ 協議事項 ＊　以下の項目を承認

☆ 名誉会員について　中野正康一宮市長

☆ 西尾張分区IM決算について

☆ 第25回ローターアクト地区年次大会について

☆ プログラム変更(3月～6月)について

☆ 2015－16年度ロータリー手帳購入について

委員会報告

出席報告　　委員長　瀬古篤司

現在の会員数	91名
本日のビジター	0名
本日の出席数	64名
他クラブ出席数	6名
本日の出席率	76.92%
前々回の出席率	97.53%

ニコボックス

☆ 森　初男君(IM実行委員長)

本日の理事会で、IMの決算を御承認いただきました。その喜びで。

☆ 山田一仁君

本日、米山奨学生の盧　銀美さんが卓話をさせて頂きます。よろしくお願い致します。

☆ 磯部　茂　則竹伸也君

米山奨学生　盧　銀美さんの送別例会を開催できる喜びで。

＊＊＊　インターアクトクラブ近況報告　＊＊＊

修文女子高等学校

インターアクトクラブ顧問　　石井恭二

インターアクトクラブ3年生11名は2月28日、無事卒業式を終えました。在学中はいろいろとお世話になり、ありがとうございました。

また27日には送別会を行い、ロータリークラブからは卒業生ひとりひとりに記念品をいただき、ありがとうございました。

今後ともよろしくお願いいたします。

＊＊＊＊＊＊ プログラム ＊＊＊＊＊＊

米山奨学生
盧 銀美さん送別例会

一宮ロータリークラブの皆様へ
米山記念奨学生としての１年間

2014年4月から2015年3月までの1年間、米山記念奨学生として、歴史と伝統のある「一宮ロータリークラブ」で大変お世話になりました。まことにありがとうございました。私は、今年の3月に博士前期課程を修了し、4月から博士後期課程に進学します。米山記念奨学生になり、経済的に、精神的に本当に安定した生活ができて、無事に進学することができました。すべて、一宮ロータリークラブの皆様のお陰です。最後に、今までの研究、これからの研究計画、そして、一宮ロータリークラブの皆様への感謝の気持ちを伝えたいと存じます。

1. 修士論文について

・論文タイトル：「語る声の生成――トーキーへの転換と日本映画のヴォイス・オーヴァー」

＊「ヴォイス・オーヴァー」は、映画の語り方の一つの技法で、映像に被せられる音声であり、画面上の登場人物のセリフとその唇の動きが一致していない非同期的音、非同時的音です。フィクション映画の場合、スクリーンの中の登場人物が自分の心情を吐露したり、あるいは自分の状況を語ったりする際、ヴォイス・オーヴァーが使用されます。

本研究では、「トーキーへの転換において、ヴォイス・オーヴァーの機能、役割はどのように考えられ、どのようなものとして使用されていたのか」という問いを立てました。トーキーへの転換において重要な問題であったシンクロナイゼーションに関する言説、技術的な問題を考察すると同時に、1930 年代映画のヴォイス・オーヴァーの分析をすることでその特徴、機能、効果を明らかにしました。修士論文では、フィクション映画で採用している内面を語るヴォイス・オーヴァーに焦点を合わせ、「内面を語るヴォイス・オーヴァー」「葛藤するヴォイス・オーヴァー」「ナラタージュ式のヴォイス・オーヴァー」の 3 つのヴァリエーションを提示しました。

本研究の意義は、以下の 2 点にあるといえます。1 つは、トーキーへの転換においてシンクロナイゼーションという技術的問題にとらわれていた言説の側面を中心に、日本映画史のトーキーにおけるヴォイス・オーヴァーを歴史的に考察した点です。もう1つは、特にトーキー作品におけるヴォイス・オーヴァーの語り方に注目し、その注目すべきヴァリエーションを提示することで、1930 年代のヴォイス・オーヴァーの特徴を明らかにした点です。こうした 2 点を踏まえた研究成果は、日本映画のトーキー研究、さらに映画のヴォイス・オーヴァーの語り研究という映画理論・映画史の領域に貢献できるといえます。

2. 博士論文について

博士論文では、サイレント映画からトーキーへの転換期（30年代）、戦中（40年代前半）、戦後（40年代後半から50年代）という時代において、ヴォイス・オーヴァーという技法が使用された文脈、さらにはそれが概念化されていった過程を検討します。また、映画作品の分析や当時の言説の歴史的考察、アメリカ映画の影響の分析により、ヴォイス・オーヴァーに特徴的な機能と意味を明らかにしたいと考えております。その際、新派悲劇風の映画や戦意昂揚のために製作された映画といった映画ジャンルや、映画会社との関連性を考慮して、日本映画史におけるヴォイス・オーヴァーの重要性を検討します。さらに、サウンド・トラックとイメージ・トラックの関係に関する欧米の理論と突き合わせながら、日本映画のヴォイス・オーヴァーを分析します。このような作業によって、最終的には、社会的・文化的な文脈との関連性からヴォイス・オーヴァーの語り方の特徴を明らかにしていきたいと考えております。

3. 米山記念奨学生として

一宮ロータリークラブの皆様！ 米山記念奨学生として皆様に頂いた、ご支援、温かいお言葉、そして1年間の経験は、私の大事な宝物となっております。他では経験することができない、たくさんの思い出を作ってくださり、まことにありがとうございました。一宮ロータリークラブの方々から学ばせて頂いた多くのことに感謝し、米山記念奨学会の学友として、自分の夢を実現するために頑張ります。今後、社会・歴史を意識した創造的な研究を更に行い、日本と韓国の文化・政治的交流の架け橋の役割を果たしていきたいと存じます。1年間、大変お世話になりました。本当に、ありがとうございました。

例 会 変 更 案 内

クラブ名	例会日	例　会　場	受付
犬　　山	3月17日(火)	名鉄犬山ホテル	有

※　時間に指定のないクラブの受付は 12:00～12:30 です。